

平成 30 年度
大刀洗町住民協議会 答申
「暮らしの中の鉄道」

平成 31 年 3 月 12 日
大刀洗町住民協議会

目次：

1. 答申にあたって	2P
2. 住民協議会実施概要	3P
3. 鉄道を自分ごと化するための提案書	4P
4. 付録：アンケート結果	21P

1. 答申にあたって

大刀洗町長 安丸 国勝 様

第5期（7テーマ目）となる住民協議会は、昨年9月から4回にわたって議論を重ね、それらを集約したものを「提案書」として町長に答申を出すこととなった。

今回のテーマは、「暮らしの中の鉄道」。これまでは、「ゴミ問題」「子育て」「防災」など、行政が主体となって行っている取組みだったが、今回は行政が直接に運営しているものではない鉄道（西鉄甘木線、甘木鉄道）がテーマとなり、これまでとは性質が異なっていたと聞く。

「鉄道の乗降者数が減少しており、このままいくと廃線も免れないため、いかにすれば電車に乗ることができるのかを考えてほしい」という行政側の問題意識が初回に伝えられた。委員の中では、日常的にはあまり乗らないが、鉄道は空気のようにあって当たり前だし今後に残してほしいという意見が多くあった。

回を経るごとに、「乗らなければ廃線が現実になるかもしれない」「乗る以外のサポートの仕方もあるのではないかな？」など、鉄道をまさに「自分ごと」として捉えられるようになっていった。特に第3回にナビゲーターとして来られた、琴平電鉄社長の真鍋さんの「鉄道は特に誰のものかを考えると、通学で利用する子どもたちのものではないか。」というメッセージや、とにかく何でもやってみて失敗したら引き返せばよいという発想は、大変勉強になった。

今回は行政の意向であえて鉄道に絞ったテーマ設定だったが、バスとの連携などについても多く意見が出ていたので、公共交通全体をテーマにしても良かったかもしれない。

この協議会には鉄道事業者も毎回オブザーバーとして参加されており、日常的に利用していない人も入った議論の場はあまりないと仰っていた。今回のように、多様な住民、行政、事業者が一緒になって議論する場は非常に重要だと感じている。

町長に提出するこの提案書を、行政の中で可能なものは随時進めていただき、また鉄道事業者との調整も早急にしていきたい。私たちも、鉄道に限らず町のこと全体について今後も積極的にかかわりを持っていきたい。

平成31年3月12日

大刀洗町住民協議会委員 一同

2. 住民協議会概要

大刀洗町としては5期目（7テーマ目）となる「住民協議会」を実施した。
委員、テーマ及び各回の議論は以下の通りである。

○ 委員

無作為に抽出し協議会委員の案内を送付した数	494 件
応募した委員（応募率）	23 名（4.1%）
参加した委員の数 ・ 応募した 23 名から 18 名を選任。 ・ 抽出とは別に高校生 2 人を追加で選任。 ・ 仕事の都合により 1 名が辞退。	19 名

○テーマ及び各回の議論

テーマ：「暮らしの中の鉄道」

各回の議論

- ・ 第 1 回会議：2018 年 9 月 17 日（月・祝）
住民協議会の概要説明（構想日本）
テーマに関する説明（地域振興課）
委員の自己紹介など
- ・ 第 2 回会議：2018 年 11 月 17 日（土）
テーマについて全体で協議
「改善提案シート」の記入 など
ナビゲーターの参加
- ・ 第 3 回会議：2018 年 12 月 15 日（土）
「改善提案シートの中間とりまとめ」について全体で協議
「改善提案シート」の記入 など
ナビゲーターの参加
- ・ 第 4 回会議：2019 年 1 月 19 日（土）
「鉄道を自分ごと化するための提案書（案）」について全体で議論
「意見提出シート」の記入 など

3. 鉄道を自分ごと化するための提案書

鉄道を自分ごと化するための提案書

本提案は、各委員が第2、3回会議で記入した「改善提案シート」と第4回会議で記入した「意見提出シート」の内容及び、各回の協議内容を踏まえ取りまとめた。

【自分ごと化するための方向性】

「鉄道は特に誰のためのものか？」を考えると、通勤などによる定期利用者の他、「学びと健康」、つまり子どもと高齢者のためではないか。特に未来を担う子どものために鉄道は維持すべきである。それを、乗る以外のことも含めてみんなで支えるための仕組みを、行政と鉄道事業者、そして住民も考えていく必要がある。

また、意外に鉄道のメリットを認識していなかった人もいる。鉄道のメリットを多くの人が認識し、電車を使うことの必然性を感じられるようにすることで、「年に1回が2カ月に1回乗るようになった」など一人ひとりの変化を起こしていく。

■□■ 改善提案の項目 ■□■

1. より多くの人々が鉄道廃線の危機感を持つための働きかけを行う
2. 鉄道のメリットの明確化など、まずは利用が増えるための試みを何でもやってみる
3. 鉄道利用者を増やすために行政、事業者、町民が一体となって積極的なPR活動を行う
4. 定期利用者、特に子どもに寄り添ったサービスを行う
5. パークアンドライドが定着するよう活用にはさらなる工夫をする
6. 駅までのアクセスの改善などによって、他の移動手段から鉄道に切り替えるための必然性をつくる
7. 駅のイメージを変える
8. 電車に乗る以外の支え方を考える

□ ■ 改善提案概要 ■ □

【提案 1】

より多くの人々が鉄道廃線の危機感を持つための働きかけを行う

「電車はあって当たり前」から「なくなる可能性もある」への考え方の転換を多くの住民が持つ必要がある。乗降客が減少している現状（西鉄）を周囲に伝えるなどして危機感を持つための働きかけを行っていく。

私たちが行うこと

個人の取組み

- 電車がなくなった際のデメリットも考える（あることが当たり前になっている）。
- できるだけ自分も乗り、身近な人に乗るように勧める。
- 電車を利用する回数を1日でも増やす。
- 家族や友達に伝える。
- SNSを使って多くの人に知らせる。
- マップの存在を知らせる

地域の取組み

- 駅周辺の清掃等環境整備をする。
- 回覧板を利用して知らせる。
- 各公民館などで行っているふれあいサロン等の参加者にも伝えていく。
- 一番困るであろう大刀洗中学校のPTAに働きかけ「西鉄電車がなくなると高校に行けなくなりますよ、どうしますか。」と話題に取り上げてもらう。

行政の役割

- 廃線の可能性があることを町民に伝え、乗車を促す。
- 全世帯にアンケートをとり、どの位の駐車場の需要があるのかを確かめた上で、駐車場の整備の検討をする。
- 本郷駅・大堰駅の両方とも駅の周辺の道路が狭いので、駅の周辺の道路等を整備する。
- 鉄道会社とのイベントを増やすなどつながりを強める。
- イベントの開催。
- 子どもを対象に電車に乗る劇や芝居（交通安全指導など）を行うなど楽しく伝える。
- 電車に乗ると貰える特典や電車のお得な前売り切符の発行（10,000円で11,000円分の切符が貰える）。
- 広報誌で特集を組む。

鉄道事業者の役割

- わかりやすいマップの作成（漫画を用いるなど）
- 中学校のPTAに鉄道の話をするなど、子どもの親に直接話に行く機会を作る。
- 廃線の危機であることがわかるチラシをお店などに貼る。

その他

- 【議会】大刀洗町議会で取り上げて様々な面から話し合いをしていく。
- 【行政・鉄道事業者】小・中学生に「電車に乗ろう」というポスターを描いてもらう。そのことを大々的に学校で取り上げたり、ドリームセンターで掲示したりする。それを通して、保護者、地域住民等に啓発する。
- これから先、電車を必要とする子ども達の為に、もっと効率良く、廃線の危機感を大人に持たせることが必要。保育園・小学校・中学校の保護者会、総会等で、直接ダイレクトに保護者に告知し、“子ども達の為に”大人が何ができるのか考えてもらうことも必要ではないか。
- 危機感を持つことが電車利用に1番直結する。どのように周知するかが大切だと思う。
- 現在、必要かどうかだけではなく、将来を考えて働きかけていかないといけないと思う。

【提案2】

鉄道のメリットの明確化など、まずは利用が増えるための試みを何でもやってみる

鉄道が維持できることをまずは最優先に考える。そのためには、利用者が減少している現状を変えなければならない。「失敗したらやめれば良い」くらいの気持ちで、色々なことにチャレンジして動きを作っていく。その前提として、鉄道利用のメリット（車の渋滞や事故を抑制する、時間がある程度読める、お酒を飲んだ時に乗れる、運転が苦手な人からすると乗ってしまえば近くまで運んでくれる、など）をもっと周知していく必要がある。

私たちが行うこと

個人の取組み

- まず、自分が意識して利用する。
- 友達や家族に勧める。
- 利用する為の目的作りをする。
- 子どもが電車に乗る機会を増やし、電車に乗ることの楽しさ、便利さを体感させる。
- どんな電車に乗りたいか、どんな駅が好きかという情報を得る。
- 「たまには電車も便利ですよ。」と知り合いに伝える。
- 電車のメリットを改めて自分でも考え周りにも伝える。

地域の取組み

- 鉄道を使うためのイベント、遊びを開催する。
- 地域での集まり、行事等で鉄道を利用できないか話す機会を設ける。
- 鉄道の利用を回覧板などで周知する。
- （大刀洗校区の）コミュニティバスを連動させて集客する。
- 一時的に居住している外国人は車ではなく公共交通を使うので、外国人の受け入れ体制を考える。
- 駅の清掃等、もっと電車を身近に感じられる活動をする。

行政の役割

- 駅に駐車場があることを更に広める。
- まずはイベントの実施等によって鉄道に親しんでもらう。
- 現在の鉄道の運営状況を町民が理解できるようにする。
- 対策を打って利用が増えなければ路線の廃止やバス等での代替を考える。
- 各家庭にアンケートを実施し、一人ひとりのニーズを把握した上で情報提供していく。
- 町営住宅を駅の近くの住宅地に作る（既に行っていることを必要に応じて広げていく）。
- 三井の寿の蔵開きとコラボして大々的に西鉄電車、大刀洗町、大堰駅をアピールする。
- 鉄道利用のメリットをまとめたものを広報紙などで紹介する。

鉄道事業者の役割

- 琴電のように色々なことをやってみる。
- マスコットキャラクターの検討（やるなら本格的に）。アンケートなどもいいのではないかな。
- 「ここまで行くといくら」という看板等を作る。
- 鉄道利用のメリットをもっと大々的にアピールする（計画を立てやすいなど）。
- IC カードや PAY PAY などですら電車代を払うことができるといいな。
- 面白い自動販売機の導入。

その他

- 今後少子化になり、人口も減る中で電車の必要性はあるのか？
- 【鉄道事業者・行政】車いすの方が、鉄道を安心して使えるようにしてください。また、使えるようになったらポスターや広報誌で知らせていただきたい。

【提案3】

鉄道利用者を増やすために行政、事業者、町民が一体となって積極的なPR活動を行う

これまで行政は広報紙で利用促進について掲載したりポスターを作成したりしているが、まだまだ住民に伝わり切っていない。例えば「集中利用促進期間」を設けて、この協議会の内容（報告書）やマップなどを活用したPR活動を行うなど、それぞれの立場で利用促進を図る。

私たちが行うこと

個人の取組み

- 駅の時刻表が記入されたポスターを家のリビングに貼る。
- 鉄道を使うことを心掛ける。
- 鉄道関連の取組みが色々あることを広める。
- 友人、知人、地域の人に利用を勧める。マップなどあることを伝える。

地域の取組み

- 駅の時刻表が記載されたポスターを公民館、役場の掲示板に掲示する。
- 地域活動で利用促進について伝える。
- 区長から住民へ利用を促す。
- 小学生・保育園児・老人会で、利用の機会を増やすようにPRする（言葉で伝える）。

行政の役割

- 時刻表・最寄りのタクシー・運転代行・駅付近の飲食店を記載したポスターを配布する。
- 鉄道を中心としたマップを作成する（見て楽しいと思えるような）。広報に挟んで全戸配布する。
- 駅施設を新しくするための資金を支援する（補助金）。
- 駅周辺の街灯を増やし明るくする。
- 駅周辺の区画整理などを考える。
- ホームページに交通機関（電車、バスなど）の時刻表をわかりやすく載せてPRする。

鉄道事業者の役割

- 本郷駅の近くにコンビニがないので駅に作れないだろうか。
- 企業に呼び掛けて、車両を広告の場として使用し、車両をアピールする。
- 小・中学生、高校生、大学生等にマップを作ってもらう。目線が違うものが何種類あってもいいのでは。

その他

- 「のりもの・おでかけマップ（平成 30 年度版）」に書かれている「おサイフ・環境・わたしにやさしい公共交通」の内容（2000CC の自家用車を持っているだけでかかる費用 1 日に 1,700 円など）は、わかりやすいポスターにして周知する。

もっと利用を

おサイフ 環境 わたしにやさしい公共交通

2000ccの自家用車を持っているだけでかかる費用

1,700円/1日

バスや鉄道は、乗るたびに運賃がかかるので、割高なイメージがあります。自動車なら1日当たり数十円程度のカリフォルニアで済むと思われがちですが、自動車には保険、税金、駐車場代、車検など、様々な維持費がかかります。

■持っているだけでかかる費用(2000ccの自動車の場合)

車両 28万5千円	(=200万円/7年間)
税金 7万5千円	(2000cc 1.2%の乗車)
自動車税 2万9500円	
自動車保険料 1万5000円	(=3万円/2年間)
自賠責保険料 1万510円	
車検 2万5千円	(=14万円/2年間)
駐車場 10万円	
任意保険 10万円	
⇒ (28万円+7万円+7万円+10万円+10万円)/365日=約1700円/日	

更にガソリン代、駐車場利用料や事故のリスク、修理代等を考えると、もっとかかります。

公共交通は自動車より格段に安上がりです。

1日10分 車の使用を抑えることで削減できるCO₂排出量

410kg

地球温暖化の原因となる温室効果ガス。その代表格であるCO₂を減らすと、みんなが色々な活動を展開しています。

- 電気のスイッチをこまめに消す
- エコドライブで燃費削減
- 冷暖房の温度調節

でももっとCO₂を減らす方法があるんです。それは「車に乗らないこと」ということです。車は便利ですが、必要に迫られるまで乗らないでください。みんなが車に乗るのをやめれば、1日10分でも減らしてみませんか？

■乗らないCO₂削減方法と削減量^{※1}

削減方法	削減量(kg)
1日10分乗らない	410
1日10分乗らない	410
1日10分乗らない	410
1日10分乗らない	410
1日10分乗らない	410

■1人1km乗るのに排出されるCO₂^{※2}

乗る方法	排出量(kg)
自動車	約100
バス	約10
電車	約5

公共交通を上手に利用すれば、効果的な温暖化対策となります。

※1 乗らないCO₂削減量は、乗るCO₂削減量に比べて約10倍です。
※2 乗るCO₂削減量は、乗るCO₂削減量に比べて約10倍です。

車とその他の乗り物で移動した時の消費カロリーを比較

102kcal < 220kcal

車ははずっと走っていられます。便利なですが、だからこそ健康にあまり良くありません。例えば1時間車で移動するのと同じバス・鉄道を使えば、それだけで消費カロリーは2倍程度になります。

■車とその他の乗り物で移動した時の消費カロリーを比較する

乗り物	消費カロリー(kcal)
車	220
バス・鉄道	102

○バスと徒歩で移動した場合の消費カロリー

バスで15分乗る場合、15分間の乗車と15分間の徒歩をそれぞれ10分ずつ歩いた場合、

消費カロリー 220kcal (バス) + 102kcal (徒歩) = 322kcal

徒歩 3.33km (バス) + 102kcal (徒歩) = 102kcal

合計で220kcal

これは、車での移動の倍以上となります。

公共交通を上手に利用して、都市もワタシもスマートに！

ドライバーが死亡事故を起こす確率

1人/300人

ドライバーは約6.15万人^{※1}、人身事故が年間約49.3万^{※2}だとすると、ドライバーが人身事故を起こす確率は1年間で約0.8%です。さらに、交通事故で亡くなる方は年間約3,900人^{※3}、50歳を過ぎると死亡事故を起こす確率は0.32%^{※4}です。つまり約300人のドライバーのうち1人は死亡事故を起こすのです。

■車を運転することは、自分にも他人にも危険が伴います。ニュースで報じられる「車の事故」は決して他人の事故ではありません。自分は大丈夫と受けていませんか？

■車を運転していると、天候の悪化により、いつかは事故を利用するようになると、これからは公共交通機関を利用してみませんか？

時間を有効に使える公共交通で、リラックスアクセス！

※1 国土交通省「平成29年度全国運転免許保有者数調査」
※2 警察庁「平成29年度交通事故発生状況」
※3 警察庁「平成29年度交通事故発生状況」
※4 警察庁「平成29年度交通事故発生状況」

平成30年度版
※このマップは平成30年4月1日現在の情報に基づいて作成しています。

のりもの・おでかけマップ

久留米広域連携中核都市圏 公共交通マップ Public transportation map

大川市

大木町

久留米市

小郡市

大刀洗町

うきは市

モックくん

くるっちゃん

くるっちゃん

オリスン

たっくん

うきはちゃん

小郡市

大刀洗町

久留米市

うきは市

大川市

大木町

バス

バス

バス

バス

バス

バス

バス

バス

バス

バス

■西鉄電車・西鉄バス
☎0570-00-1010 または 092-303-3333
【西鉄お客さまセンター】(8:00~24:00年中無休)

■高速バス
☎0120-489-930 または 092-734-2727
【九州高速バス予約センター】(8:00~19:00)

■小郡市コミュニティバス
☎0942-63-6027
【西鉄バス佐賀(株) 南橋支社】

■うきはバス・うきは市

【提案4】

定期利用者、特に子どもに寄り添ったサービスを行う

鉄道を最も必要としているのは子どもたち。子どもを中心に置いて鉄道利用を考える。ただし、子どもたちに負担や責任を押し付けることのないよう、大人（行政、地域、鉄道事業者など）が子どものための鉄道をいかに維持できるかを考えなければいけない。

私たちが行うこと

個人の取組み

- 通学で利用して思いつく意見やアイデアを行政や鉄道会社に投げかける。
- 定期利用者以外にも電車を利用する機会を増やす。
- 鉄道の危機を周りの人に伝える。

地域の取組み

- 何かあれば、地域として協力する。
- 駅周辺の整備（子供や学生、高齢者のニーズに合わせた）
- 子ども達とのゴミ拾いなど、そして駅への親しみを増やす。
- 子どもが気軽に参加できる催し物をやってみる。

行政の役割

- 住民からの意見を取り入れた環境作りをした上で、鉄道会社との協力をさらに増やす。
- 駅周辺のマップ作り（駐車場の有無、駐輪場の有無など）。マップを少しだけ見せたが、子供や高齢者のためと考えると見にくい、わかりにくいと思った。
- 電車の乗り方や良さなど、子ども達の社会見学を学校授業で行う。
- 地域や事業者の取組みをバックアップする。
- 定期利用者へ補助（運賃割引等）を出す。
- 昔乗っていた人のために写真展などを行う。
- 中学校の授業の中で鉄道の必要性（鉄道があることで大刀洗町の中学生は、南北の校区どちらにも行ける優位性など）を伝える。
- 毎日、駅までの送り迎えが申し訳ないので、コミュニティバスがあってほしい（高校生）。

鉄道事業者の役割

- 駅に意見箱を設置し、利用者の不便に感じることについての要望を聞き改善する。
- 電車の良さや乗り方などを子どもに伝える（社会見学など）。

その他

- 子どものための電車と考えた時、大人ができることは何か。
- 鉄道の廃止は、子どもたちに影響があると思うので、子ども達自身に危機感を感じてもらえるよう、大人たちが情報を与えなければいけないと思います。

【提案5】

パークアンドライドが定着するよう活用にさらなる工夫をする

駅を使いやすくするためにはパークアンドライドの周知拡大が必須。特に役場駐車場の活用について、事前予約を不要とし、いつでも停められるようにするなど、利用しやすくするための工夫を行う必要がある。

私たちが行うこと

個人の取組み

- 役場に行く機会を作る等、知る努力をする。
- 意識的に情報収集をする。
- 駅に行くときに確認する。
- 知人に役場の駐車場が使えることを伝える。
- 若い人や子供たちに鉄道があることを伝える。
- 鉄道を利用する機会を増やす。

地域の取組み

- パークアンドライドのことを回覧板等で周知したり、わかりやすいポスター等を作る。
- 知らない人にも教える。
- コンビニに無断駐車をさせない。
- 役場駐車場の清掃活動をする。

行政の役割

- 役場駐車場を土日開放し、予約なしでいつでも駐車できるようにする。
- 突発的な利用もできるようにする。
- ホームページや広報紙でさらに周知する。
- 周知用のポスターを貼る。

鉄道事業者の役割

-

その他

- 【行政・鉄道事業者】役場、駐車場から大堰駅までの安全通路を確保する。
- 【行政・鉄道事業者】駅近辺の駐車場があるか、ないかで、利用するかしないかが決まってくると思うので、是非、どの駅でも駐車場を作っていただきたい。

【提案6】

駅までのアクセスの改善などによって、他の移動手段から鉄道に切り替えるための必然性をつくる

現在は駅までの交通手段がとても限られている。バスを活用して駅まで行きやすくすることを検討する。また、先述の鉄道利用のメリットの周知などによって、例えば毎日車を利用していたのを月に1回電車にするなど、ほんの少しの変化のきっかけ作りを行う。

私たちが行うこと

個人の取組み

- イベントの時は電車を利用するようにする。
- 車の利用を減らす。
- 子ども達を目的地までではなく、駅まで送る。

地域の取組み

- 鉄道利用の行事を考える。
- 子ども会や老人会等のバスハイクを電車ハイクに変更する。

行政の役割

- 駅を経由するコミュニティバスの運行。
- 高齢者へタクシー券を渡すことで駅までの移動をしやすくする。
- 公務での鉄道利用を増やす。(効率は悪くなるかもしれないが役場と駅が近いので)。
- 「ドリームまつり」等駅近くでできるイベントを増やし、電車を利用した人に何かメリットを設ける。
- オンデマンドタクシー等の検討。
- 駅の様子がわかりやすくなるように、標識を数か所に付ける。
- タクシーではなく、役場のコミュニティバス等が駅まで送ってもらうことはできないか。公民館から駅までなど、時間で回るバスでは利用者が少ないので効率的ではない。

鉄道事業者の役割

-

【提案7】 駅のイメージを変える

駅の入口がわかりにくいなどの声が多い。案内表示が少ないなどの物理的な課題とともに、駅が身近なものになっていないからそのような声が出てくると考えられる。駅に子ども作品を展示したり駅舎のデザインを住民に委ねるなど、全国の先進事例を参考にしながら、親しみのある「地域みんなの駅」になるための取組みを行う。

私たちが行うこと

個人の取組み

- 駅の周りの清掃を行う。
- 駐車場や駅の場所等を把握する。
- 駅が身近になることをさらに考えて鉄道事業者に提案する。
- 子どもの作品展などがあれば協力する。

地域の取組み

- 駅の周りの清掃を行う。
- 駅の場所をわかりやすくなる案内文書を地域で配布する。

行政の役割

- 駅の場所や入口がわかりにくいので、駅周辺に案内表示する。
- 切符の買い方がわからない高齢者が多いので、電車を使って行事を行い、切符の買い方を教える。
- 無人駅の切符の使い方を分かりやすく。パッと見て、子どもでもお年寄りでもすぐ理解できるようにポスターを作る。
- 鉄道広報のようなものを作って配る。(町の広報誌に目立つように掲載する)
- グーグルマップなどをうまく活用して携帯から駅周辺を見やすくする。
- なじみやすい駅、電車にするよう鉄道事業者に働きかける。

鉄道事業者の役割

- インスタ映えする駅にする。
- 駅や電車で子どもの作品展を展示して子供や保護者を呼び込む(身近になってもらう)。
- 朝倉市がどう考えているのか確認する。
- 電車の中を温かい雰囲気にする。切符の買い方など詳しく説明した案内を駅に貼る。

その他

- 西鉄甘木駅の駅前には、駐車スペースや広場がなく、歩道も整備されていない。再開発することで費用対効果は期待できないだろうか。
- 駅の場所などわかりにくい、行きたくなるような駅になるといいなと思う。
- 新しい夢のある駅にする。
- 駅を温かく！大刀洗らしさを取り込んだ駅にするのは魅力的。
- 駅によっては、早朝、夜間など暗いイメージがあります。無人の駅も多いので、安全面により配慮をお願いしたいです。
- 無理して近代化しなくてよい。

【提案8】

電車に乗る以外の支え方を考える

すべての住民が鉄道に乗ることは現実的ではない。ただし、乗ること以外の協力もある。【提案4】の子どもたちのための鉄道を守るために、この協議会のような考える場を作ったり、個人個人が宣伝することによって鉄道を盛り上げていく。

私たちが行うこと

個人の取組み

- SNS など活用して興味を持ってもらう。
- 鉄道のことを考える場をつくる。
- 周りの人に鉄道をアピールする。

地域の取組み

- 地域としての鉄道の広告、宣伝を行う。
- 清掃等の駅の管理を地域で引き受ける。
- 地域として鉄道のことを考える場をつくる。
- 町内の無人駅で、見守り隊のようなボランティア活動をする。

行政の役割

- 広告したいという会社への PR。
- 鉄道事業者と協力して駅を観光できる様々な拠点にする。楽しい駅づくり。

鉄道事業者の役割

- 異業種とコラボする（温泉、映画等）。
- ホームに飲食店を作ることの検討。
- 駅を生活の一部に取り入れるため、ATM、コンビニ、食堂を設置する。電車に乗るだけでなく、駅に行ったら楽しめるところにする（駅に写真撮影場所を造るなど）。

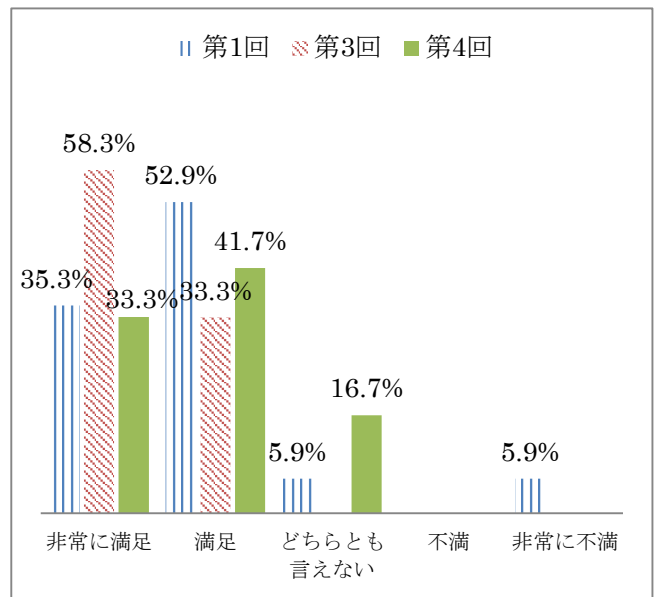
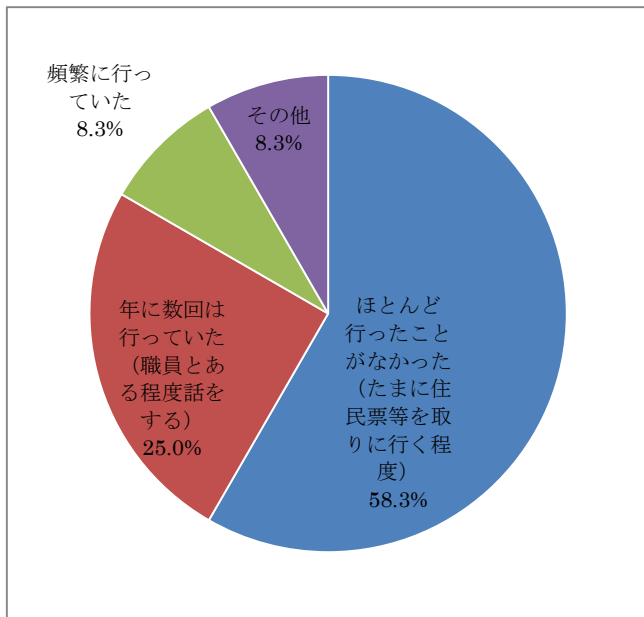
その他

- 西鉄と行政の連携が取れていないのではないか。中長期計画を立て、大堰駅とミニストップを陸橋で結ぶ等、鉄道利用しやすくなるための事業を行う。
- 町内を縦横していたバス、2路線の廃線の教訓を上手く生かせていないのではないか。足がなくなることの危機感をもう少し持たなければならない。
- 行政は、過去のことも情報提供し、厳しい面も町民に投げかけてほしい。
- 駅や電車内にインターネット（W i - F i）環境を作る。
- 昨年より福岡市総合体育館ができて、プロバスケットボールチームの拠点になっている。それを活用してもいいのではないかな。

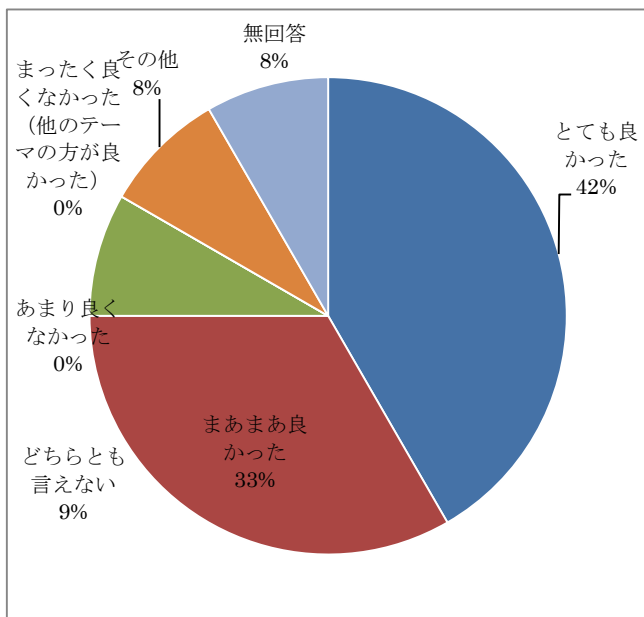
4. 付録：アンケート結果

第4回住民協議会の終了後に実施したアンケートの結果（第1回、第3回に実施したアンケートと同様の質問については、その結果を比較して掲載。）

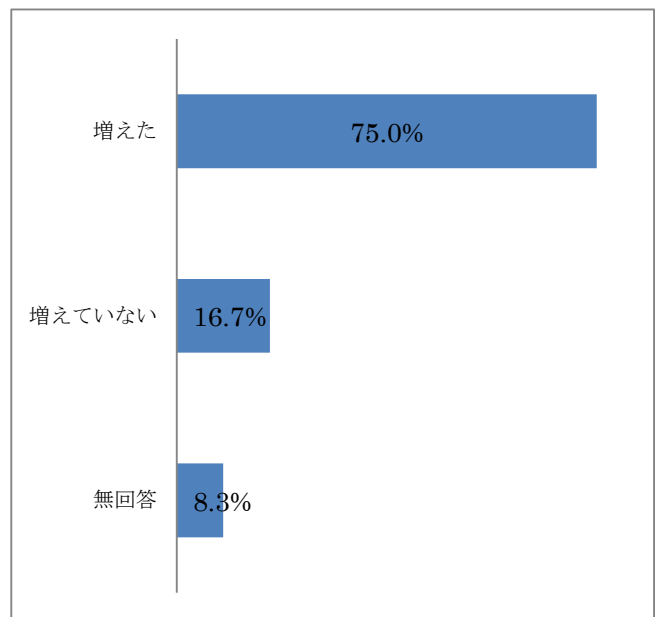
- ① 住民協議会に参加する以前に、大刀洗町役場とどの程度の関わりがありましたか。



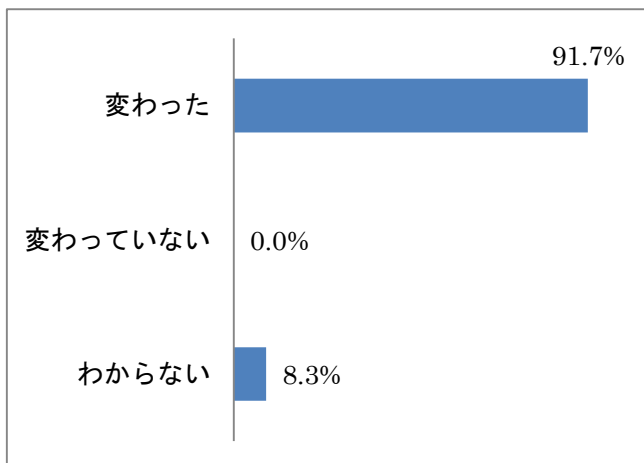
- ③ 今回のテーマ「暮らしの中の鉄道」は、住民が考える内容としてどう思われますか。



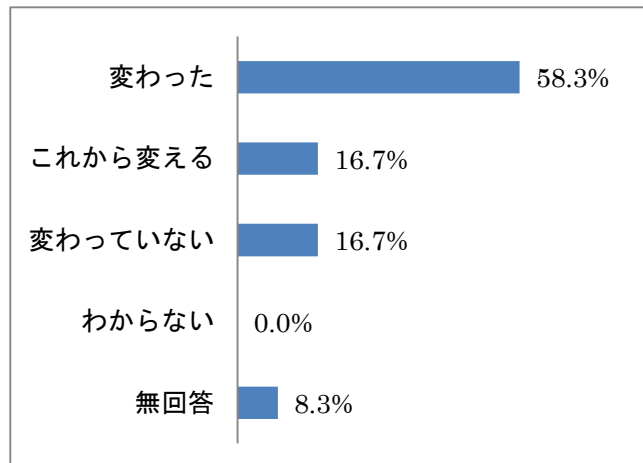
- ④ 大刀洗町の鉄道（西鉄や甘鉄）について、周りの人と話す機会が増えましたか。



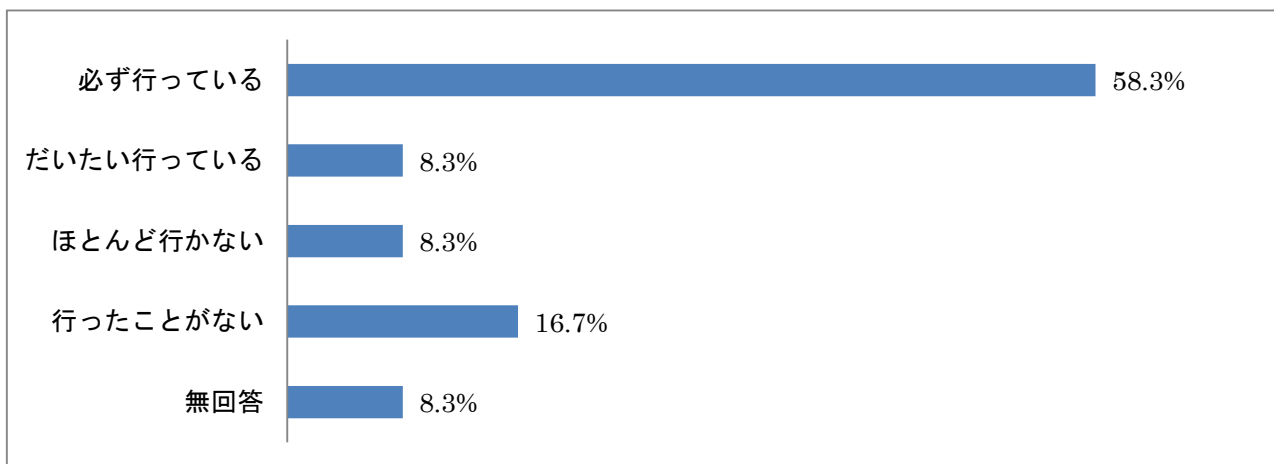
⑤ 住民協議会に参加したことで、意識に変化はありましたか。



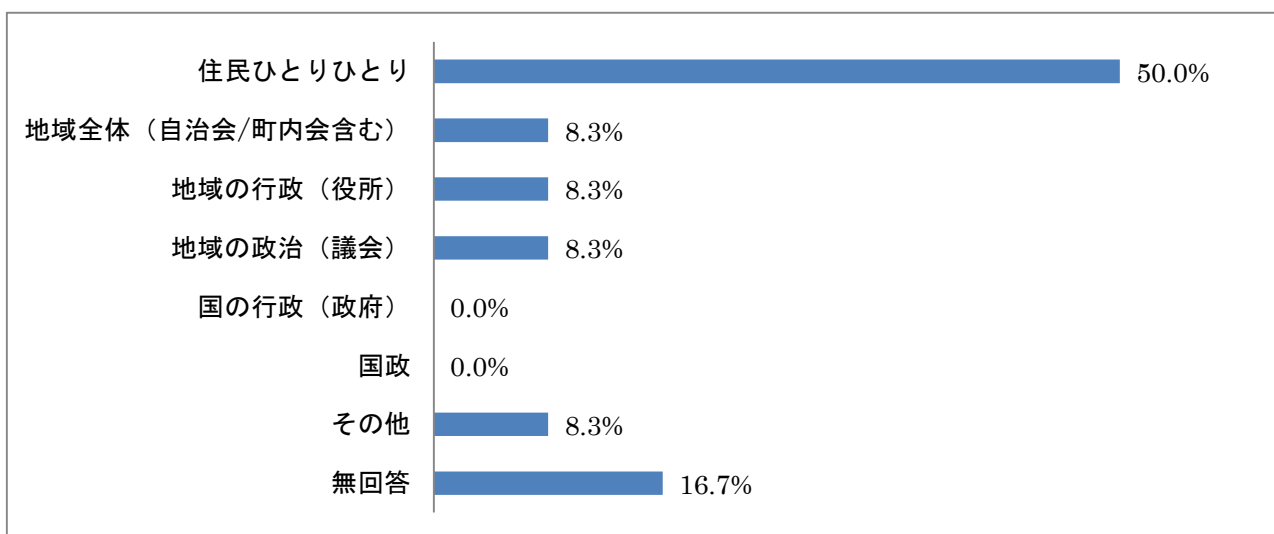
⑥ 住民協議会に参加したことで、行動に変化はありましたか。



⑦ 選挙の投票に行きますか。



⑧ 大刀洗町をより住みやすくするために、特に誰が主体的に行動することが必要だと思いますか。



<「意識の変化」の具体事例>

- 廃線を考えていたが、残す方向で考えるようになった。
- 大刀洗町の現状をしっかりと知らなければと思った。人口減少、少子高齢化の波が待ったなしで、自分たちの身近な問題となっていると理解した。
- とりあえず電車でも行ける場所ならば、電車に乗ろうと思った。
- 行政や鉄道事業者が色々な取組みをしていることを知った。
- 大刀洗のことについて考えるようになった。
- 大刀洗町を良くしたいと思う様になった。
- 役場に行く機会を増やしたいと思う。
- 公共交通について考えるようになった。
- 行政に関わることが大切だと思うようになった。
- 意識的に電車を利用しようと思うようになった。

<「行動の変化」の具体事例>

- 常に電車を利用できないかと一番に考えるようになった。
- 車でなく、余裕をもって電車を利用するに考える。
- 多少面倒と思っても電車に乗るようになった（今まではタクシー代を払ってでも時間短縮を考えていた）。
- なるべく電車に乗るようにした。駅について興味がでてきた。
- 自分自身もですが、家族も電車に乗る機会が増えました。
- 鉄道だけでなく町のことについて色々と興味が出てきました（行政の現在の取組みなど）

<住民協議会を終えて、今回のテーマ（暮らしの中の鉄道）に『私は今後、こうやって関わることが出来る、関わっていきたい。』などがあれば、ご記入ください。>

- 孫たちと定期的に電車を利用することで、関わっていきたい。
- 駅の掃除などでの協力。
- 鉄道の大切さを子どもたちに伝え、存続させることに協力していきたい。
- 周りの人に鉄道に乗るように促したい。
- 今後も意識して情報を収集し、知り合いに電車の良さを広げていこうと思う。
- あらゆるタイプの住民（子どもだけでなく、老若男女、代々大刀洗の住民、転入組、外国の方）の意見を聴ける自分で居る。声を発することができない層の人たちの声を反映できる自分でいたい。
- コミュニティバスなど他の代替手段での駅までのアクセスの方法を模索していきたい。
- 鉄道を移動手段の一つとして取り入れる。

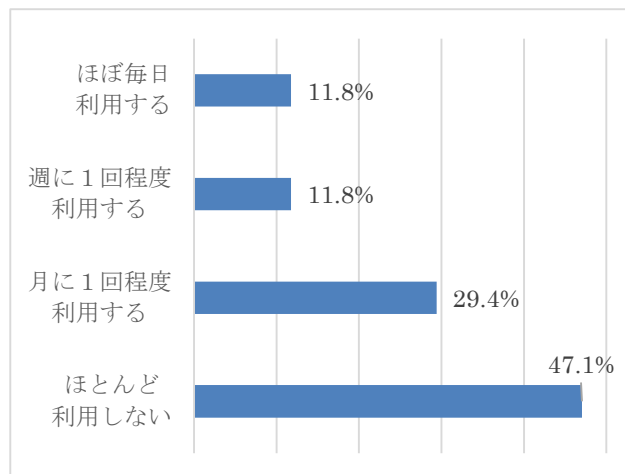
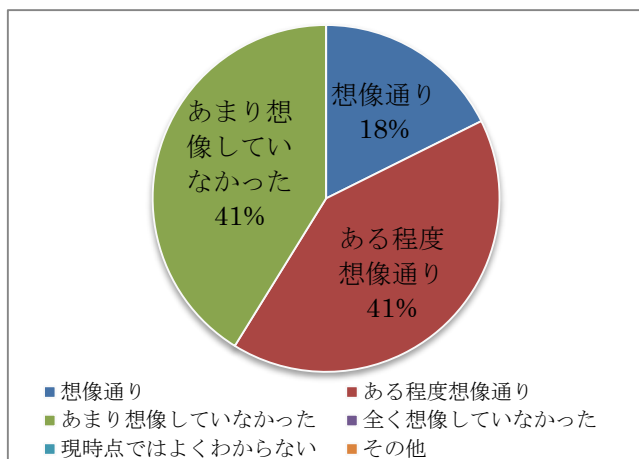
＜そのほかの感想＞

- 鉄道が「子どものための乗り物」という考え方が大変参考になった。
- わかりやすい意見など多く理解できた。しかしすぐに結果がでないのが残念であり、鉄道会社の本心はどうなのか、わかりづらかった。
- 「住民協議会とは何なのか？」を知り、大刀洗町の課題を自分事として考えることができた。
- 行政に関わる機会をいただき、すごくいい経験になった。
- 住民協議会というものを今回初めて知った。参加できて良かった。行政の方々も頑張っていることがよくわかった。それにも関わらず私たちが興味を示さないのは、とても失礼なことだと思った。今後は色々関わっていきたい。
- 住民協議会に参加して、住民の意見というよりは行政側から何かしらの目的に対して、誘導されている様になり、マイナスのイメージの方が大きくなった。
- 住民同士が意見交換することで深まる会なのかと期待していたが、実際は住民「同士」が会話できず残念だった。
- 日常では接点のない住民が、縁あってこのような機会を持ったのをうまく化学反応できるようにしていただきたい。住民同士が繋がれる機会という点で進行、会の持ち方を検討していただきたい。

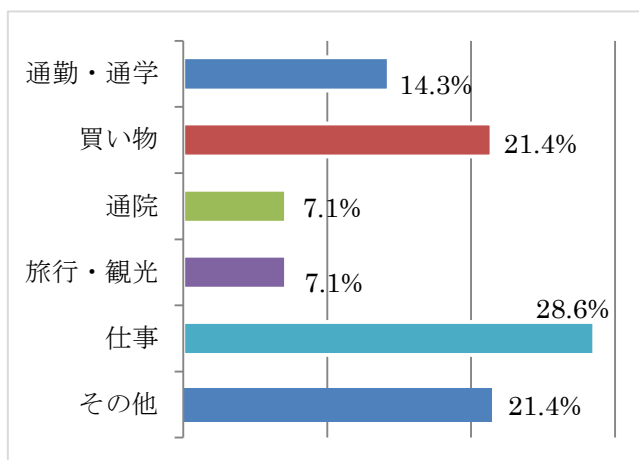
【参考】第1回、第3回住民協議会に実施したアンケート結果（抜粋）を下記に示す。

～第1回住民協議会アンケート（抜粋）～

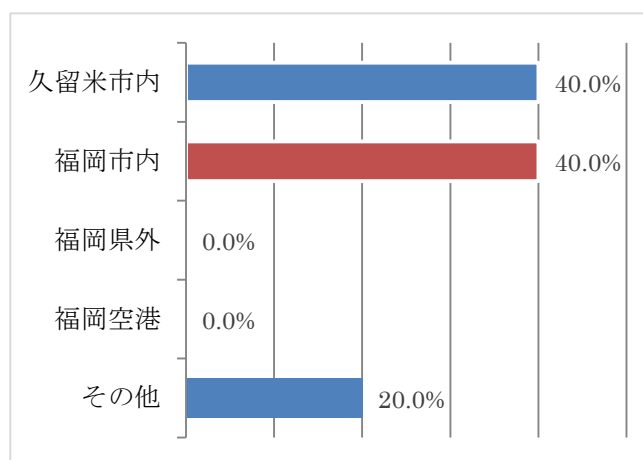
- ① 大刀洗町における鉄道利用の状況を聞いてどのよう
に感じましたか？



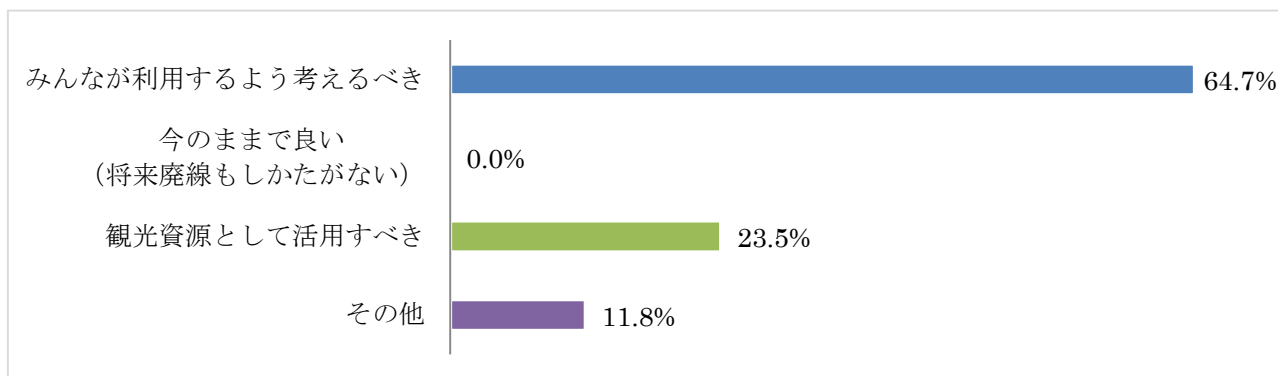
- ③ 鉄道区間は、どのような目的で利用していますか？



- ④ 「③」の目的地は、主にどこですか？



- ⑤ 住民はもっと鉄道を利用すべきだと思いますか？



～～第3回住民協議会アンケート（抜粋）～～

1. 西鉄甘木線・甘木鉄道が存続することの「メリット・デメリット」をご記入ください。

メリット	デメリット
● 車に乗れない人の足になる。 ● 交通手段が町民全体に提供されている。 ● 人口を増やす事が出来る。 ● 運転できない方や学生の通勤・通学にはどうしても必要だと思う。 ● 子ども達の交通手段が確保できる。 ● 当たり前利用出来ること。 ● 甘鉄：西鉄大牟田線との連絡（乗換）が好都合で重要なアクセス手段。 ● 西鉄甘木線：「甘木線のある景色」と思い出。 ● 電車の利用が増え、自動車が減って二酸化炭素排出の減少につながる ● 子ども達が鉄道のファンになる。 ● 大刀洗町が活気づく。	● お金がかかる ● 経済的な面。 ● 費用（電車の維持管理等を含め）が掛かる。 ● 30分に1本という、本数が少ない点。 ● 駅を利用したまちづくりができない。 ● 「存続しよう」という対策が「鉄道駅」ありきだと、費用対効果としてどうなのか。

2. 西鉄甘木線・甘木鉄道が廃線になることの「メリット・デメリット」をご記入ください

メリット	デメリット
● 経済的余裕ができる。 ● 他の交通機関を考えることになる。 ● 代替に、バスを通す。 ● 仮に、西鉄甘木線がなくなったとしても甘木鉄道が存続していれば、それを軸とした利用方法、アクセスを検討する好機だと思う。	● 車に乗ることができない人の足がなくなる。 ● 車を持たない学生や高齢者が困る。 ● 車を持たない人の交通手段がなくなる。 ● 免許を持っていない方や学生の移動手段がなくなる点。 ● 人口減少が早くなる。それに伴う税金の減少。 ● 本当に何もなくなる。 ● 一度廃線になると、再生ができない。 ● 旅行へ行けなくなる。 ● 西鉄甘木線に対しては特になし（思い出の品がなくなるという点のみデメリット）。

	● 真鍋さん（第3回ナビゲーター）の話の中にあつたように貧困が加速する。
--	--

平成 30 年度住民協議会参加者

委員	宮原 希斗	委員	末次 理恵
委員	重松 優希	委員	今村 隆
委員	龍 紗織	委員	平城 文恵
委員	馬田 裕介	委員	國武 和幸
委員	中村 知浩	委員	渡邊 裕子
委員	山本 梢	委員	牟田 千秋
委員	掛橋 幸司	委員	山田 英二
委員	池田 道臣	委員	中村 療助
委員	上出 佳子	委員	松本 哲雄
委員	棚町 三和子		

構想日本

<コーディネーター>

- ・伊藤 伸 （構想日本 総括ディレクター）

<ナビゲーター>

【第 2 回】

- ・大野 達（国土交通省航空局航空ネットワーク部航空ネットワーク企画課長／元鉄道局鉄道事業課長）

【第 3 回】

- ・真鍋 康正（ことでんグループ代表、高松琴平電気鉄道（株）代表取締役社長）